

# 博物館だより



No.138

平成30年5月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

## ◆博物館NEWS

### ①春の民俗芸能行事シーズン到来!

#### 「楽・山笠・神楽」公開情報

4月から5月は春のお祭シーズン。祭につきものさまざまの民俗芸能が今年も町内各所で奉納・公開されます。  
とりわけ神楽は昨年、国の重要無形民俗文化財として「ニッポンの宝」となり、またみやこ町のもは含まれないながら、山笠行事はユネスコの無形遺産に登録されるなど、民俗芸能の対外的評価は高まっています。見慣れた姿ゆえその価値が分りづらいのですが、様々な謎やメッセージを含み、継続していること自体が奇蹟であり価値といえるのが民俗芸能です。

この時期、改めてふるさとの民俗芸能をじっくりご覧になってみませんか?

## ②神楽見学の新しいアイテム登場!

### 歴史たんけんマップ

#### 「豊前神楽編」が完成しました

博物館がみやこ町文化遺産活用実行委員会の監修をいただいて作成した「歴史たんけんマップ」豊前神楽編」がこのほど完成しました。

このマップは町の文化遺産II宝を、こどもたちにも分りやすく紹介することを願って作成したもので、文化庁の補助事業(文化遺産総合活用推進事業)を利用して作成したものです。神楽見学のお供にご利用下さい!



▲マップの一部。クイズで神楽のことが学べるようになっています

- 5月以降の公開民俗芸能
- ・燈畑神楽(豊前神楽)
- 2日(水)／燈畑公民館
- ・光富神楽(豊前神楽)
- 3日(木)／徳矢神社
- ・横瀬神楽(豊前神楽)
- 3日(木)／横瀬公民館
- ・上伊良原神楽(豊前神楽)
- 4日(金)／上伊良原公民館
- ・生立八幡神社山笠」行事
- 12日(土) お下り／神社周辺
- 13日(日) お上り／神社周辺



▲「生立八幡神社山笠」行事

※豊国祭は本年の奉納は行われませんが、神幸祭は実施されます。  
※公開終了や未指定行事は掲載していません。ご了承下さい。

## ◆講座・教室・催し物ガイド

### 5月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】
  - 5月5日(土) 9時30分
  - 【古文書講座】
  - 5月12日(土) 10時00分
  - 【古典かな講座】
  - 5月19日(土) 9時30分
  - 【みやこ学講座】
  - 5月26日(土) 10時00分
- ※日程等変更となる場合があります。  
※見学入会等は別途ご案内します。

## 友の会定期総会のご案内

平成30年度の「博物館友の会定期総会」を次のとおり開催いたします。会員の皆さんはぜひ出席ください。

- 日時 5月27日(日) 10時
- 場所 当館 研修室
- 議事 年間事業計画の審議等
- 記念講演会
- 「幕末・維新期の郷土」

みやこ町観光まちづくり課  
川本 英紀氏

## 博物館友の会で「楽習」を!

博物館友の会は「故郷を楽しく学ぶ」をモットーに見学会や各種イベントを行っています。関心のある方ならどなたでも参加OK。お気軽にお申込みを!

- ♪入会の方法
- 博物館窓口で登録・会費納入
- ♪年間会費
- 個人会員 3000円
- 家族会員 1名 2000円

♪お問い合わせ先  
博物館 ☎33-4666

## 3月の業務日誌から

3月10日(土)、蔵持山を舞台に「歴史たんけんウォーク」が行われました。20名近い参加者が早春の山中を巡行、山頂からは水がたまったばかりの伊良原ダムも見え、新しい絶景を堪能しました。

3月24日(土)、博物館が発注していた展示資料複製品(レプリカ)の検収作業が行われました。本物と見まがうばかりの「立派な(?)複製品」は、今後、本物を休憩させるために活躍します。



▲行場となる山中の窟廻りも行き山伏気分を体験しました



▲納品された複製品は本物との区別がつかないほど精巧です

みやこの歴史発見伝 106

県指定天然記念物

千女房のヤマザクラ

福岡県を代表する樹齢三〇〇年の巨樹

日本人と桜

桜の開花は、私たちにとって最も春の訪れを感じさせるものであり、「桜の開花予報」などは、「桜」が他の草木の開花とは異なる特別な位置付けであることを物語っています。近年でも稀にみる寒い冬となった今年は、特に待ち遠しいものとなり、また桜は「みやこ町の花」として町のシンボルにもなっています。

「千女房の山桜」

サクラはバラ科の樹木で、現在は「ソメイヨシノ」という江戸末期から明治時代にかけて発売された品種が全国の約八〇%を占めるまでになりましたが、それ以前の古典文学等に登場する桜は、「山桜」を指すものです。

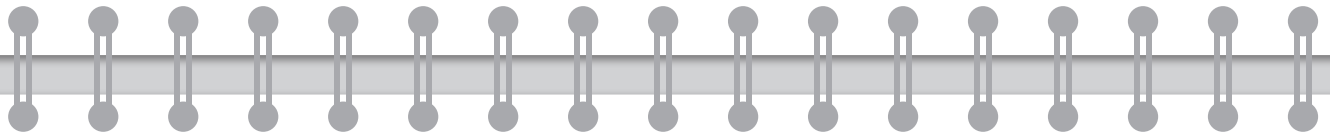
「千女房のヤマザクラ」は、みやこ町と香春町を隔てる障子ヶ岳から北東へ延びた尾根の傾斜地に位置し、樹高約一九m、幹周約五m、枝張り二六mを測る樹齢約三〇〇年のヤマザクラで、その規模が県を代表する巨樹に位置付けられたことから本年三月二〇日に福岡県指定天然記念物



▲千女房のヤマザクラ（本年4月1日のようす）  
県の天然記念物に指定後初の開花状況。3月末の気温の上昇で一気に満開となり、地元主催の「千女房桜まつり」もひととき賑わいました。

に指定されました。この山桜は二〇年ほど前までは地元など一部の人々がその存在を知る程度でしたが、合併前に編纂された「勝山町史」執筆に伴う研究者の調査によってその規模と価値が評価され、平成一六年一月二二日に町の天然記念物に指定されました。これ以降、地元有志を中心に周辺の清掃や除草が行われ、開花時には町内外より多数の見学者が訪れます。

「千女房」の由来について詳細は確認できませんが、この近隣に尼寺が建っていたという伝承や、桜周辺で銅製の鰐口（仏堂等に吊られる仏具の一つ）が出土していることなどから、尼僧に関係する僧坊の存在が伺え、これが名称の由来になったとする見方もでき、桜だけでなく風雅な名前もまた大切にしてゆきたいものです。（井上信隆）



博物館おすすめの逸品レポート

Vol.24

この展示(& 収蔵資料)ココが見どころ、ココがツボ!!

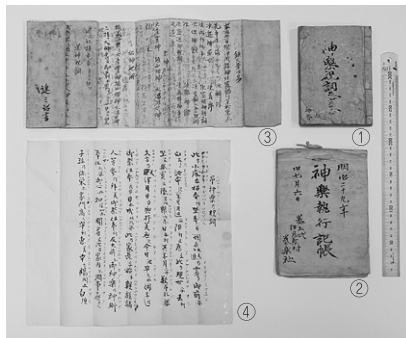


●資料名

上伊良原神楽資料 1 式

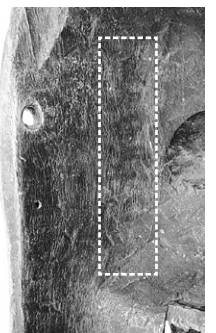
●データファイル

法 量：古記録および神楽道具類 約30点  
製作年代：江戸後期～昭和初頭  
ポイント：町内最古の神楽関連資料



▲神楽に関する古記録。○番号は文中の番号と同一。いずれも「神楽に関することは何でも器用にこなした」と語られる故進三治氏の作で、几帳面さと器用ぶりが窺える。

▼裏面に天保の記録（点線枠内）を残す古面。年号のほかに人名も記すが判然としない。いわゆる御先（鬼）面で、形状は現在のものとほぼ同一。汚れや艶に使い込まれた様子が窺える。



memo

この資料は上伊良原神楽講社（現在の保存会）および、同神楽の名人故進三次氏を輩出した進家に伝存した資料群の総称で、町内に現存する神楽資料の中では最古のものです。資料は大きく古記録と神楽道具類からなり、古記録には次のようなものがあります。

①「神楽祝詞及言事」1冊：神楽の由来や番組・台詞（言事）を纏めた小帳

面でよく使い込まれています。

②「神楽執行帳」1冊：講社発足の明治29～40年までの奉納記録で、地区内外で年間10数件、日露戦争後は18件の奉納が記録されています。

③「鎮火祭次第」1冊：「湯立」神楽の言事や次第を纏めたもので、一種の神楽の「虎の巻」のような資料。

④「弔神楽乃祝詞」：神葬祭時の祝詞文で、葬式も神楽と捉えられた資料。

いっぽう神楽道具には①古面、②明治期のものと見られる神楽装束、③「戸前」登場神の祝詞折紙、④採物（小道具）などがあります。

注目は①の古面で、裏面に朱書で「天保十二年三月」と記されます。練習用に譲り受けた社家神楽時代の遺品とみられますが、赤幡流直伝の系譜を伝える上伊良原神楽の歴史を物語る貴重な資料です。（木村達美）